

児童発達支援

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ドリームつばさ		公表日		令和7年3月1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数やお子さんの発達に応じて活動の内容を考慮し、部屋を分けるなど環境設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		人数や活動内容に応じて職員を配置。外出時や個別対応が必要な時には人員を多く配置することもある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動内容や個々に合わせて仕切りパネルを置く・シートを敷く・視覚提示物を貼るなどの構造化を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内清掃、玩具の消毒、こまめに換気を行い、子どもたちが快適に過ごせるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の活動を行ったり、クールダウン等に使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で振り返りを行い、次の目標設定を実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意向をもとに業務改善に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の送りや振り返り、支援会議等で意見を出し合う場を設け、改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修や外部の講師を招いた研修会を開催している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントシートを使用し、保護者の要望を考慮しながら支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員が共通理解の下で、評価・検討をし作成をしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の話し合いの中で、統一した関わりができるよう取り組んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートや個人記録を作成し、状況の確認を行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに則した支援項目を設定している。面談等お子さんの発達において情報共有し、幼稚園や保育園、関係機関と連携し、支援項目を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		立案者を中心に話し合って決めている。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ねらいを設定し、職員間で活動内容を検討している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を組み合わせて支援計画を作成し、支援を行っている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打ち合わせをし、活動内容や役割分担を行い支援を行っている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		療育を振り返り、良かった点や改善点を全員で共有するように努めている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録をとり、関わり方や支援方法について検討できるようにしている。保護者からの連絡事項なども記録に残すようにしている。		
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	○		必要に応じて担当者会議に参加をしている。		
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		各機関と情報交換を行い、連携を図っている。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育所・幼稚園等と情報共有を行い、それぞれの役割を確認したり、統一した支援ができるよう努めている。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時の移行の際に、サポートファイルを作成している。また、保護者からの要望や小学校からの希望により情報交換を行うことがある。		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			機関支援の助言を受けたり、児童発達支援センターと定期的に情報交換を行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○			今後、交流の機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			お子さんの様子を連絡ノートや送迎時、電話等で情報交換を行ったり、必要に応じて、相談を受けたりアドバイスを行っている。保護者と共通理解のもと支援できるように努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			ニーズに合わせて助言やアドバイスを行ったり、情報等を提供している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時には必ず説明をしている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			支援計画の作成時には、必ず保護者の意向や要望を確認し作成している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	保護者と面談時に支援計画の内容を説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	定期的に面談を行い、助言やアドバイス等を行っている。その他必要に応じて相談等に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	茶話会を開催し保護者の方々の交流の機会を設けている。就学児前相談会も実施している。茶話会の際に兄妹をお預かりし交流する機会を設けている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	相談の申し入れがあった場合には迅速に対応できるように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	ドリーム通信、また、Instagramやブログを通して日々の様子や行事の様子などを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の取り扱いには十分に注意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	意思疎通や情報伝達が正しく行われるよう配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	お子さんが制作した作品や収穫した野菜をお渡しするなど、地域の方との交流を図っている。	今後は地域に人を招待する機会をつくってきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを作成し、職員間で周知している。毎月避難訓練を行い、反省を活かし訓練の見直し等を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	月に一度想定される災害において避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	契約時に確認している。都度、お子さんの状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	契約時にはアレルギーの有無を確認している。全職員に周知し、その後発生したものは報告をお願いしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成し、職員に周知している。計画に基づき点検や研修を行い、安全管理に努めている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	安全計画を立てマニュアル化しているが、家族への周知や連携には至っていない。	家族への周知と連携が図られるように取り組んでいく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハット事例集を作成し職員に周知している。事案があった場合には、報告書を作成し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止研修や、虐待防止通信を発行している。適切な対応ができるようにチェックシートも活用している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束を行わない療育方法を検討している。やむを得ない場合については支援計画に記載している。		

放課後等デイサービス

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ドリームつばさ		公表日		令和7年3月1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数やお子さんの発達に応じて活動の内容を考慮し、部屋を分けるなど環境設定を行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		お子さんの年齢や発達に応じて活動を設定し職員の人数を調整している。戸外活動や個別活動の際には職員の人数を増員している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動や遊びに応じてスペースを仕切る等、環境を整えている。視覚提示を見通しが持てるように配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内清掃、玩具の消毒、こまめに換気を行い、子どもたちが快適に過ごせるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の活動を行ったり、クールダウン等に使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で振り返りを行い、次の目標設定を実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意向をもとに業務改善に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の送りや振り返り、支援会議等で意見を出し合う場を設け、改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修や外部の講師を招いた研修会を開催している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントシートを使用し、保護者の要望を考慮しながら支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員が共通理解の下で、評価・検討をし作成をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々の話し合いの中で、統一した関わりができるよう取り組んでいる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートや個人記録を作成し、状況の確認を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに則した支援項目を設定している。面談等お子さんの発達において情報共有し、幼稚園や保育園、関係機関と連携し、支援項目を設定している。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		立案者を中心に話し合っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ねらいを設定し、職員間で活動内容を検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動を組み合わせて支援計画を作成し、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援前に打ち合わせをし、活動内容や役割分担を行い支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		療育を振り返り、良かった点や改善点を全員で共有するように努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録をとり、関わり方や支援方法について検討できるようにしている。保護者からの連絡事項なども記録に残すようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリングを行い、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		必要に項目を組み合わせ支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択できるような活動内容を考慮している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			担当者会議に参加できるように取り組んでいく。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		各機関と情報交換を行い、連携を図っている。	
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		保護者からの情報のもと、共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		情報交換を行い理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			該当児なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		機関支援の助言を受けたり、児童発達支援センターと定期的に情報交換を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			交流できるように検討していく。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			今後は積極的に参加をしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		お子さんの様子を連絡ノートや送迎時、電話等で情報交換を行ったり、必要に応じて、相談を受けたりアドバイスを行っている。保護者と共通理解のもと支援できるように努めている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ニーズに合わせて助言やアドバイスを行ったり、情報等を提供している。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時には必ず説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画の作成時には、必ず保護者の意向や要望を確認し作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者と面談時に支援計画の内容を説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に面談を行い、助言やアドバイス等を行っている。その他必要に応じて相談等に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会を開催し保護者の方々の交流の機会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談の申し入れがあった場合には迅速に対応できるように努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ドリーム通信、また、Instagramやブログを通して日々の様子や行事の様子などを発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取り扱いには十分に注意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思疎通や情報伝達が正しく行われるよう配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		活動時間の中で取り組むことが難しかった。 今後は、状況に応じて検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、職員間で周知している。毎月避難訓練を行い、反省を活かし訓練の見直し等を行っている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度想定される災害において避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時に確認している。 都度、お子さんの状況を確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にはアレルギーの有無を確認している。全職員に周知し、その後発生したものは報告をお願いしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、職員に周知している。計画に基づき点検や研修を行い、安全管理に努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	安全計画を立てマニュアル化しているが、家族への周知や連携には至っていない。	家族への周知と連携が図れるように取り組んでいく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例集を作成し職員に周知している。事業があった場合には、報告書を作成し、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修や、虐待防止通信を発行している。適切な対応ができるようにチェックシートも活用している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束を行わない療育方法を検討している。やむを得ない場合については支援計画に記載している。		